

前回の報告書から半年がたちました。今回こそはStanfordでの研究について書こうと思いましたが、この半年はTAに忙殺されていたので、TAの仕事について今回の報告書では書こうと思います。



教授がいつも授業で自慢気に見せるVirtual Boy

Virtual Reality

米国大学院留学でよく話題になるもののうちの一つに、Teaching Assistant (TA)という仕事があります。Research Assistant (RA)をする代わりに授業を手伝うことで給料を貰うというシステムです。このTAの仕事は授業により大きく違い、長年教えられているクラスで授業内容や宿題が完全に決まっているのであれば仕事量が少なく、設立されて日が浅いクラスであれば仕事量が

途方もなく増えることが多いです。私が担当したクラスは、自分の教授が設立した二年目のクラスで、私が昨年度受講したVirtual Realityのクラスでした。いつかの報告書で書いたような気がします。このクラスではヘッドマウントディスプレイ（HMD）を宿題を通して自分でゼロから作ります。私が受講した際も非常に楽しいクラスで、昨今のVRブームの影響もあり、受講希望者の人数が受講人数の上限を2年連続で大きく超えました。

アメリカの大学のテニユアトラックでは、開設したクラスが良い評価を学生から得ることで、テニユア獲得の可能性が大きく上がるため、新任の教授は多くの時間を授業作成に費やします。私の教授もその例外でなく、クラスの改良を初年度から行うべく、宿題を大幅に改良することを今年度行いました。その改良の大部分を私が担うことになりました。具体的には、前年度は学科のビルに常設されているWindowsマシン上のC++ / OpenGLでのみ宿題を行えたものを、誰のPCでも行えるようにブラウザ上のJavaScript / WebGLで行えるように宿題を全て移植するというものでした。私がこの移植をする役割を任命された当時、全くWebプログラミングを行ったこともなくJavaScriptという言葉も全く知りませんでした。まず文法を学ぶことから始め、ブラウザ周りのことを勉強し、膨大な時間をかけて移植を完遂することができました。苦労して作成した宿題がWebにアップロードされているので、VRに興味がある方は是非ご覧ください。<https://stanford.edu/class/ee267/>)

このような宿題作成は普通のTAの仕事に付加的に存在したもので、他にもたくさんの仕事がありました。通常、TAの主な仕事は、オフィスアワーを週に二度開き、受講している学生の宿題の質問に答えることです。さらに、授業ごとに開設されるオンラインの質問フォーラムで質問に答えるという仕事もあります。英語ネイティブの学部生から矢継ぎ早に浴びせられる質問にオフィスアワーで答え、週末問わずオンライン上で飛び交う質問に数時間以内に返信することは、大きな負担でした。（ストレスで食べすぎて、春学期の間に6lbsも体重が増えました。。。すでに通常の体重には戻しましたが。。。）

準備も含めTAの仕事量は膨大で、この半年の時間をほぼ全て費やしたように感じますが、プログラミング能力・英語能力ともに大きく向上することができました。研究だけしているとほとんど他人と会話することがない一方で、他に二人いた英語ネイティブなTAとほぼ毎日相談し協力しあって授業を進めていく過程は楽しい経験でした。全ての仕事が終わりに、もう二度とTAはしたくないと感じていましたが、最後の授業評価にて何人もの学生から僕のことを褒めてくれるコメントをもらったことは感動です。教える側の立場になりたい人の気持ちが今まで全くわかりませんでした。少しだけ理解できたような気がします。